

「一人ひとりが大切にされる国 デンマーク」

後藤 智絵

◆はじめに

私は、学生の頃より森のようちえんに興味があり、いつか発祥の地であるデンマークに行ってみたいと以前から思っていました。

昨年全国森のようちえんフォーラムで中能先生の講演を聞いたことがきっかけでこの視察があることを知り、ぜひ参加したいと思い、すぐに電話をさせていただきました。

希望者が集まり、この視察が開催されることを知った時はこれで念願のデンマークに行けると非常に嬉しかったことを覚えています。

今回の視察では、幼児教育だけではなく、高齢者や障がい者の施設も視察できることでしたので、デンマークの福祉を知る絶好の機会だとはりきって参加させていただきました。

◆デンマークの平等感

私がデンマークに行って印象に残ったのは、この「平等感」という言葉です。日本でも平等という言葉はよく耳にしている、何が平等で何が不平等なのか、以前から疑問を抱いていました。教育に関しても、手をつないでみんなでゴールして順位をつけないことや、放課後に残って補習をするのは平等ではないなど、「平等」という言葉が教育でもよく使われています。

デンマークに来てみて、さまざまな話を聞く中でデンマークは「平等」なのではなく、「平等感」だということを知りました。日本の生活にどっぷり浸かっている私としては、「平等感」という言葉を聞いても最初、よく理解ができませんでした。税制度においても、高所得者が高い税金を払い、低所得者が低い税金を払うのに、なぜ平等感を持てるのか。それが、視察をしているうちに少しずつです



が、なんとなくわかるようになってきました。

日本の「平等」は、目先の平等、不平等を対象にしていますが、デンマークでは今は不平等でも必要な時に必要なものを受け取れるという長いスパンを見越した上での平等感のような気がしました。社会基盤が違うので、デンマークのように平等感をすぐに持つことは難しいとしても、「平等」「不平等」という外面だけをとらえるのではなく、何が大切なのかという物事の本質を長い目で見極められる大人に育つための教育とはどういうものなのか、これから自分自身で考えていきたいと感じました。

◆人としての尊厳

「デンマークの子どもは、誕生祝いに民主主義をもらう」。この言葉を聞いた時、人としての尊厳が幼い子どもにもしっかりとあることを知り、感銘を受けました。

デンマークは、幼い子どもから高齢者まで一貫して人としての尊厳が守られており、人が資源だというデンマークを垣間見る瞬間でした。高齢者ケアセンターに伺った時も、びしっとスーツを着た男性がいたり、綺麗な身なりをしているお洒落な女性がいたり、想像していた高齢者施設とは全く違いました。また、一人ひとりの部屋もそれぞれ違って、自分らしく暮らしていけるような環



境でした。

さらに、視察を進めていく中でどの施設にも家族の写真があったのにも驚きました。ともすると日常に追われて一番身近な家族のことを考える余裕がなくなってしまうがちですが、デンマークでは、信頼できる家族や友達にきちんと向き合っている姿が印象的でした。交流会では、上辺だけではない人と人とのつながりを大切にしているデンマーク人の温かさにも触れることができました。

人とのつながりは一朝一夕では作れないので、私もそういった人とのつながりを今まで以上に大切にしていきたいと改めて感じるひと時でした。

また、補助器具センターでは、補助器具は「できることは自分でする」という自立のためのものであることを知りました。すぐに手助けするのがやさしさなのではなく、何がその人のためになるのかを考え、きちんと見極めて一人ひとりの尊厳を大切にすることが必要なのだと実感しました。



◆デンマークの教育

デンマーク社会では、自分で物事を考えて、判断できる自立した人間、自己決定・自己責任ができる人間像が求められています。そのため、それに応じた教育が幼い頃から徹底されていて、長いスパンをかけて、社会全体でそういった人材を育てているのだと感じました。

その教育の一つとして、子どもとの向き合い方にも違いがありました。デンマークでは、大人は子どものモチベーションを引き出す役目のアドバイザーという役割を持ち、幼い頃から子ども本人に選択させることを大切にしているそうです。上から教えるのではなく、一人の人間として接する姿はとても印象に残りました。社会で求められている人物像を教育現場がしっかりと共有していることで、デンマーク教育の最大の目的である「生きるため」につながっているのだと思いました。

また、デンマークでは、本物に触れる大切さを実感しました。10～14歳を対象とした青少年クラブを訪問した際、テレビゲーム、ゴーカート、乗馬、クライミングなどを活用した本格的な体験活動をしていて、非常に驚きました。子ども達がそれぞれ自分のやりたいクラブを選択して、堂々と活動している姿を見て、やりたいことをやれる環境があることで、さまざまな子ども達の可能性が広がっていくのだと感じました。また、その活動をサポートする大人がそれぞれの専門家であり、大人の力を間近で感じることで、子どもにとっての目指す大人の姿がある点も魅力的でした。

◆まとめ

今回、この視察に参加させていただき、多くのことを学ぶことができました。中でもデンマークの「人を大切にしている社会」に深い感銘を受けました。子ども時代は子どもらしく、障がい者も高齢者も健常者も全ての人

が自分らしく、また自分の人生や社会に責任を持って生きている姿は本当に考えさせられました。

また、夏代さんのお話の中で、「愛されれば、その子は人を愛する大人になる。社会に愛されれば、その子は社会の大事な人材となる」ということを伺いました。

今回の視察では、デンマーク人が家や施設に国旗を掲げている光景をよく見かけ、デンマーク人は国から愛され、また国を愛しているのだということを実感しました。

社会というと大きい範囲になってしまいますが、まずは小さい範囲の自分の家族、地域、自然など身近なものから愛していける子どもに育ていけるよう、子どもを取り巻く人々が子ども達を精一杯みんなで愛していくことが大切なのだと学ばせていただきました。

日本とデンマークでは社会環境が違うため、求められる人間像に違いはあると思います。しかし、私も今回視察で学んだように、「子どもに」ではなく、「子どもと」という姿勢で一人の人間として子ども達一人ひとりと関わっていきたいと思いました。

今回の視察で、自分の目を見て、感じたこ



とを糧として、まずは自分のできることから始めてみたいと思っています。この視察に参加させていただけたこと、心より感謝いたします。ありがとうございました。

